

民生委員・児童委員アンケート

- ①性別:1、男 2、女  
 ②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区  
 ③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どの様なことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとは何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	3	1 5	コミュニケーションがとれていない事。ご近所と交流をしない為	警察の方や、保健所の方など話ができる方に手をお借りする	独り住まいの方が夜、お風呂に入り、そのまま事故につながり、お子様もいらっしゃらないご兄弟がいらして、発見された(3日後に)。なすすべも無く心に重く残されてしまった。	住まいが大きい場合に近所との出入りや交流がどうしても少なくなる場合が多い。高齢者になればなる程に友達や近隣と交流を持ってほしい。
2	6	1 6 駐在所	「個人の権利意識が高くなりすぎ、公共の利益が二の次になってしまった。自分さえ良ければ良く、世間に対して顔向けできないという意識がなくなった」。以上のように見受けられたが、本人がメンタルの病気を抱えている可能性もあるかもしれない。そこまでは民生委員は踏み込めない。	地域は手を差し伸べようとしても、それを拒む人はいる。いったんその思いを引き取って、離れて見守ることにして、こちらから無理強いはしない。ご自身の状況が変われば、心情にも変化が表れる。そしてこちらとの接点が生まれる。時には結果を急がないことも大切。		究極の理想は民生委員が必要とされなくなる社会の実現だと思う。民生委員創設100周年を喜んでいるのは笑止千万。この制度がこの国に100年もあったことを憂うべきだと思う。「お互いに支え合い、不足分は行政が担う」そんな地域社会の実現、目指すべきはそこであると思う。現実には一朝一夕には難しいとすれば、子どものうちから「つながり支え合うまち」を目指した教育(道徳)を行うことだろうか。
1	4	1 5			ひとり暮らし登録者以外の高齢者の情報の把握	
1	3	1 2 5	解決しなかったことはない	地域での各組織の連携	特になし	⑤と同じ
2	4	1 5	今のところ解決しなかったことはないが、ご本人の意識が前向きでない場合は解決が難しいと思います。	日頃から周辺の方たちとの関係を良くすることが役に立つと思います。	特になし	⑤でも書きましたが、日頃から周辺の方に目を向け、声を掛け合う事が必要かと思えます。
2	4	1 5	気になる世帯の方が高齢だったり、認知能力が欠けていたり、家族がいても認識不足だったりで振り回されることです。	ご近所同士のコミュニケーションが取れること(隣組とか)。やはり地域包括支援センターが頼りになります。	特になし	遠くの親戚より近くの他人。ご近所で声かけ合うやさしい街づくりが一番だと思う。災害時などは特に！
1	1	1			特になし	地域福祉を担う心意気を持てる人材の醸成。地域住民相互による福祉活動の促進(地域のニーズにあった行動様式の発掘など)。
2	3	1 5	①前例がないケースの場合 ②相手方の受け入れ姿勢が不自由な場合	状況を見ながら何回も声かけし接触を図る	町内在住の認知症ぎみの人にゴミ出しについて注意をしても実行してもらえない(認知症の人の対応について)	
2	4	5		処理のスピードアップ。パソコン、スマホを利用する。		民生、町内、包括センター、地域のつながりが必要だと思います。
2	3	1	地域包括支援センターの方たちは、親身になって話を聴いて下さり、素早く行動に移して下さるので、問題が解決しないと言うことがない。		特にありません。	隣近所の付き合いがあまりなく、必要な情報が入りにくい。何が必要になるかわかりませんが、近所が見えてくるにはどうしたら良いのでしょうか。
2	1	1	どの位立ち入っても良いのかわからない。金銭的な問題。	わからない(個人情報について、個々の考えが異なる)。包括支援センターに助けを求める。	今のところ特にありません。	ふだんからとなり近所の方々との挨拶やコミュニケーションをとること。自治会行事への参加や協力。
2	1	2 5	相談した職員が説明した内容をよく理解しないまま行動し、途中でこちらがそれを指摘し、全く違うことで動いていたということがあった。結局その件はしり切れとんぼのようになりすっきりした解決とはならなかった。	その問題のケースによると思う。地域で相談して解決するものか、そうでないかをまずよく見極めることが大事だと思う。	特になし。	お互いの話をそれぞれがよく聞くこと。定例会等に参加しても他の委員の意見や事務局の人の話を聞かずに自分のことばかりしゃべっている人が目立つ。
1	1	1	要支援者の性格、人生観からくる近所付き合いの困難さ。近隣住民の協力が得られない。	近すぎないきよりでのお互いの見守り。	近所付き合いをしたくない人々の住む地域では、あらゆることが困難。	地域の問題解決に努力する住民を行政が正しくバックアップすること。

民生委員・児童委員アンケート

①性別:1、男 2、女

②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区

③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どの様なことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとには何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
1	4	1 5	行政側の限界(予算)	住民間のつながりを確認、強めること。	独居老人の食事(これは独居に限らない)学校給食などもっと一般的に利用できないか。	住民が集まれる場所が近くにあること、多くいつでも利用できる。
1	4	1 5	今まで相談した事案はすべて順調に行っているのに特に問題なし。一般的には、民生委員、地域包括支援センター、市役所等が連絡を密にとることができていないのではないか。	住民一町内会一民生委員が何でも話が出来る機会を設ける場所を作る。	特になし。	住民又は町内会等の下から要望をどんどん市役所、市社協の上へ伝えて実現させる方向に持って行けば良いと思う。上からの政策を待っていてはなかなか実現できない。提案できる機会を多く作ってほしい。
2	1	1 6.自治会	情報が取り切れていない。御本人が関わられることを拒否する。	情報漏えいを阻止しながら連携を図る。	噂の段階の話が多く流れている。	地域内の人々が「挨拶」する関係になる。(気軽に声かけ合う関係作り)
1	2	2 6.町内の方		地域の集まりには出席する。人を覚える、覚えてもらう。		地域の人が自由に集える場所、但し入出の時には専用カードでタッチする。時間と名前を書く必要がない。見守りにつながる。そこには水とお湯が飲めれば良いと思う。中に置くものは？一人暮らし高齢者を外出させる。各々がお互いをも守る。
2	4	1 6 児童に関しては児童委員	担当地域においては質問のような事案は発生していない。	ソーシャルネットワークに不安がある。鎌倉市の取り組みは横浜市や東京都内のようなつながり、ささえ合いの拠点となるハード面での整備が(横浜市のケアプラザ)不十分であると思う。住民(老~幼)すべてが常につながり支え合う街づくり、その方法等拠点、中心となる人、運営の為のノウハウ費用いろいろ。みんなが顔なじみになる事、地域で参加する行事を増やすこと。(雪かき、雪遊び、草取り)誰でも気軽に参加できること。	特にありません。	行政センターや教養センターで行う講座やサークル活動がそこだけで終わってしまう。若い人や現役世代や子供たちを高齢者とどうつなげていくか。社会全体の問題。家から外へ。子供の声が聞こえる街、安心して暮らせる街。自由に利用できる場所、集える場所、核、庭いじり、野菜づくり、居場所を地域につくる！ある時は居酒屋etc。「遠くの親戚より近くの他人」
2	3	1		民生委員、包括支援センター、に加えて、自治会、町内会でもバックアップ体制をとっておく。	特になし。	
2	2	2 5	マニュアル通りの対応のみ。臨機応変な対応が望まれる。	その方に寄り添って自分のことのように考える。	相手によってはとても厄介な内容だったり時間を要することが多々あり。そんな時は市や社協にお任せしたい。	連携のみ。まずは民協、社協、互いに知り合う事からなんでも相談し合える関係をめげずに作っていく
2	1	1	問題が解決しなかったことがないのでよく分からないが、市より包括の方がスピーディーに対応していただけるように感じている。	近隣の方々と日々の繋がりが大事だと考えるが、コミュニケーションが薄れていっているこの時代では、問題の深さ、内容によっては解決が難しいこともあるであろう。	特になし	自治会の力にかかっているのではと思う。個人同士では限界がある。
2	4	1 4 5	地域包括支援センター、市役所、福祉協議会、民生委員それぞれが同じ問題を解決しようとする時、タイムラグがあり、把握している内容にずれがある。身近にいる他の民生委員さんも様々な意見があり新人の私は正解が何かわからない場合がある。	町内会(近隣住民)の互助が必要だと感じます。	担当が少し離れているので、何か問題が生じても気が付かない。他の機関から知らせてもらうしかない状況です。	

民生委員・児童委員アンケート

①性別:1、男 2、女

②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区

③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どの様なことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとには何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	1	1 5				
2	1	1 5				
2	1	1 5				
2	1	1 5	お一人暮らしの方の考え方による。	包括支援センター、民生委員と協力して見守っていく。	お一人暮らしの方がデイサービスなどを利用している場合、デイサービス⇄お一人暮らし⇄民生委員とのコミュニケーションが取れる様になったらよいのではないかと。	
2	1	1 5			私の担当地域には現在のところ特にありません。	まずは、話やすい関係になっている事。
2	2	5			地域個別ケア会議に出席しても、守秘義務があるためにケアマネから詳しい情報が得られないこと。	公的機関の連携も大切だが、まずはお隣同士、ご近所のコミュニケーションが大切だと思います。
2	1	1 2 5	地域包括、市役所、地区社協等それぞれが係る範囲、支援できる範囲、程度から漏れる事項がある。自治会と連携したいが個人情報がかかると。そういう問題を「うちの方ではできません」で終わりにしないでほしい。	個人情報の問題を解決しないと、地域でできることには限界がある。そこに踏み込まざるを得なくなった時の確かな支えがないと出来ない。しかし、個別の件によっては声かけ見守りぐらいは出来る。ただし関わった人に責任を感じさせないことが大切。高齢化率の高い地域では出来ることはさらに少なくなる。	地域包括、市役所、民生委員の連携、情報の共有が出来ないこと。特に地域包括、市役所からの民生委員へ情報が来ない。来るのが遅い。民生委員の仕事が多すぎる。次の人がなかなか決まらない。	地域包括の専門の人の数を増やして欲しい。色々な制度をもっと利用しやすくしてほしい。(条件が厳しい)。民生委員に何もかも担当するようにすると、だんだん人が居なくなる。定年も65才になり、高齢でも働く人が多くなるのでなおさら。有償化も考えてみてはどうか。(仕事として位置付ける)。
2	3	1	一人暮らしの場合、親身になる親族がいないこと。家族がいる場合(別居の)でも、支援が入ることに積極的でないこと。	近所の人や昔からつき合いのある人が、気にかけてくれること。民生委員の方もオープンに活動していると、ちょっとした立ち話からでも地域のことがわかる。	本人のプライドが高く、なかなか現実を受け入れられない人が多い。緊急連絡先も一応書けけれど、なるべく連絡しないでほしいという人が意外にいて困っている。	みんながお互い様という気持ちになれるといい。元気な人も、そうでない人も気軽に集えるイベントがあると、外に出てもらいやすい。
2	2	3	相談者自身がやる気や自信を無くしてしまう。専門家と話し合ううち、最初の意気込みは飛んで、消極的になって深みにはまってしまう。	落ち込んだ心を取り戻すのは難しいと思う。周囲がサポートすればするほど、別の方向へ行ってしまうのではないかと。結局は相談者自身の強い気持ち次第ではないか。	今はないが、人の心を推し量るのは相談する方もされる方も気を遣うし大変難しいと思う。ただ市役所の対応の「ぬるさ」は感じることもある。	近所で行き交う人には積極的に挨拶をする。子どもの登下校にも声をかける。余計なこととは言わず「おかえりなさい」「いってらっしゃい」等。
2	4	1 5	難題ですが、ご家族の方が(遠くに)居られる方にはご家族の方との連携が一番の近道のように思います。私が担当している高齢者の方は、お子様のことを必ずお話しされます。	地域包括支援センター、担当のケアマネさんと密に連絡を取り状況を把握した上で、相手様の気持ちを聞き対処できればと思います。	ある一部の高齢者の方からですが、家族がおりますが、まったく一人暮らし高齢者と同じ生活の様子なので、一人で過ごした方が自由で楽しく、楽にできるのではと相談されたことがあります。	地域の方のつながりはもちろんのことですが、色々な方がおられる中で、見守りはとても大事かと思いました。関わりを断ちたい方も中にはおられますし、淋しくて道でお会いしました時には、嬉しそうにお話しをされますので、ちょっとした見守りは必要と感じました。
1	4	1 2	市役所職員のやる気、意識改革。コンピューター等の機器の改善、投資。市職員の専門職の投入、強化。市民の意識改革。資金力。	地域出身の市会議員の選出(市居住年数が短い市会議員が多く、理想論が多く、地域に密着した活動が出来ていない)。地域住民の継続的な改善項目の提案、発言。	地域の社会生活の優先順位を考えず、自分の趣味、反対することに喜びを覚える住民が多い。例えば、北鎌倉の裏通りのトンネルの問題。近隣の人は生活道路として使用していたが、歴史問題云々で延期になっている。あの通りにはもう一つトンネルがあったが、住民の希望で取りくずした。その時には今の反対派は何も言わなかった。今の反対派は生活道路として使用していない。外部の居住者である。	

民生委員・児童委員アンケート

①性別:1、男 2、女

②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区

③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どの様なことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとには何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	1	1 4	関連する領域の連携プレーの不十分さ。情報の共有化が上手にいかない。個人情報の壁が立ちほだかる。			情報の共有、開示、連携。そのためには普段からの信頼関係、繋がる人間関係が築き上げられなければいけないと感じます。
2	1	1			今は特にありません。	
2	1	1 2	相談者が福祉に対して固執した考えを持ち、心をつなぐことが出来ない時、又は当事者が求めていることと手を差し伸べようとする側に微妙なずれがある場合等に原因があるのではと思う。	日頃から地域の人たちと良い関係を持ち多くの人が集まる地域の行事等に積極的に参加をしてもらい、地域に溶け込むことが大事だと思う。	地域に馴染めない人、近隣との交流を避けている人に対して気にはなっているが訪問しにくい。「来ないで！」と拒否される場合もある。	特に近隣の人たちとは顔なじみになり、常に助け、助けられる間柄を築いておくことは災害の時にも必要である。自分の存在を周りの人に認めてもらう事によって、心が開いてくると思うので普段からマメな声かけが大切だと思う。
2	1	1 2 3	時間的な事。包括支援センターの方が良く動いてくれて良い方向に向いていった事があります。焦らず時間をかけていくことも必要だと痛感。	見守る事、声掛けする事。	今のところ特にありません。	日頃の挨拶などを通して知り合いになっていく。組単位(自治会)でのつながりを深めていく。でも自治会に入っていない人に対して、どこまで行けるのか課題です。イベント→商店街を含んでいるので顔を合わせるチャンスを作って貰えます。夏祭りとか餅つきとか。民生委員⇔包括⇔住民(自治会入会無)を相談して行ける地域に！
2	1	1 2	ご本人の考え方や価値観の違い	自治会内科医と包括支援センターと市役所と民生委員の連携 つまり地域の力+行政の力+個人の力で対応	マンション住民のことが分かりづらい 自治会の役員が1年で全員交代してしまう(マンション)	地域の人との絆 地域で活動している人たちのネットワーク 自治町内会組織の充実 地域を支える人材を育てる
2	2	1 3、2 4、5	わからない	地域全体が高齢化しているため、支え合いは困難なことが多い	民生委員も高齢だが、後を引き継ぐ人がなかなかいない 高齢者の自宅に訪問する際、一人でなく複数だといいが。	住民のコミュニケーションが十分でない。交流が必要。
1	4	1 2 5	地域の繋がりを強化することが必要と思います。	男性が積極的に参加してもらうようなことを考える。		サロン活動等の開催。
2	2	1				自治町内会、社協の行事等に参加する事により、地域住民と顔見知りになり、つながりもできるのでは。子供から大人までが集う場所が必要なのでは。
1	1	1 5	制度上の問題(制度が古く、現状に合っていない、又は高齢者の実生活に則していないから)	隣近所のつき合いが何より大事。民生委員だけではなかなかむずかしい処もあります。	特にありません。	細やかな情報が必要と思います。
2	4	1 5	金銭トラブルに関する事で、きちんとした証拠がない、近隣者の為言いにくい。(強く返してほしいと云った者には返す) 個人情報保護もあってやたらと人に云えない。		高齢と供にさまざまな問題がおこり、近隣者と付き合いたくない人が増えてきている。	地域の人達が仲良くなれるような事は(イベント等)行われているが、身体的精神的なことから仲間に入れたい人が増えささえあうところかささえしてほしい人ばかりになってどうしてよいかわからない。
2	1	1 5	精神疾患(異常)の方の近隣トラブルは、解決しないケースがありました。これから増える傾向があるように思われるので、社協・保健所・市役所等の連携。行政が専門家の要請、専門部署の設立をぜひお願いしたい。			民生委員としては、自治会との連携がこれから必要なと思います。

民生委員・児童委員アンケート

①性別:1、男 2、女

②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区

③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先		④相談しても問題が解決しなかった場合、どのようなことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとには何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	6	6		相談案件をもっていないです。	集団では問題視は見受けられますが、問題視する方の主観に違和感があります。	守備範囲が抽象的ですから…。具体例を参考にしても…。そこに行く道が日頃の関係性を問われているようで、時代背景(個人主義)から、対人距離が相談しにくい。日常の多忙で適切はつかみにくい。	とどのつまり、「心」「気持」にうるおいがもちにくい時代。「つながりさえあうまち」という表現より、もっと具体的に「明日からできること・あいさつ」を大きく表現したらどうか？例えば「今日は？」みたいに分の初めにもってくるとか。
1	5	1	6 ご近所の方	原因はケースバイケース。	地域よりはより身近な近所の住民。	情報不足。	地域包括ケアシステムの確立が先決⇒在宅医療の確立。
2	2	1	5	就任一年しかたっていないので、深刻な問題に立ち会った経験はありませんが、課題・問題ごとにマニュアル的なものがあると、わかりやすいと思います。複合的な課題の場合は、関係機関との情報の共有が必要と思われます。原因はこの情報の共有が速やかに行かないからだと思います。	面倒な面もありますが、やはり基本は隣近所との付き合いで、「問題がある」「悩みがある」ということをまわりに知ってもらうことだと思います。そのためには、顔を合わす機会(久ーンデイとか祭礼とか)を活発に(活性化)したら良いのでは、と思います。	守備範囲(子どものことから高齢者の問題等々)がとても広いので、自分の知識の無さにへこみます。どの問題をとっても根深くて…	独居の元気な方の日中を有効にする手立ては何かないかと考え中です。社協のバザーの作品を依頼するとか、サロンの所で昔話をしてもらおうとか…。少しずつでも連れて行けたら良いと思っています。
2	3	1	5	たとえばホームに入所したいと相談を受けると、すぐに入所できるものと思っております。順番ということは何回か伝えてわかってもらえるよう努力しています。難しいことは包括に相談して知恵をいただいています。	事例を出してどのように解決して行ったかと話を聞く。ご近所の協力。	腰越は地域密着型なので問題はあまりありませんが、お年寄りがまだ行政にお手伝いをしてもらいたくないという感覚があります。	気楽に話し合う場所が増えれば活動しやすくなると思います。
2	5	1	5		町内会(加入していない人も多数ある)と地域包括支援センター、民生委員等のコミュニケーションが必要かと思われます。どちらも一方通行では情報が共有できません。	支援を必要としている人、家庭がどこにあるのかつかめてなく、個人的なネットワークでしか情報が入手できない。知られたい事情をかかえている人は、自ら連絡はしてこない。	
1	5	1	5	本人と対応した機関(担当者)との問題に対する意識や認識にギャップが有るのではないかと。問題の内容により対応が困難な事がある。			地域の継がりを良くして、行政が明確なビジョンを出すのが良いのではないかと。
1	1	1	5	高齢者の方の病状、体調により解決が困難な事があります。ご家族、ご親戚との緊密な連携が大事だと思います。	自治会との連携で高齢者の方の日頃の悩み事を把握して問題解決を計る必要があると思われる。	民生委員はボランティアであり、その活動の範囲が相手が老齢の為定義が今一つ不明確である。	包括支援センターは頑張っているが人数も少なく市としてのさらなる支援の体制づくりが必要と思われる。

民生委員・児童委員アンケート

①性別:1、男 2、女

②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区

③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どのようなことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとには何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	2	1 5	解決しなかった場合がないので分かりません。	町内会で協力して頂ける方が居る場合、大体のことは解決できると思われます。	特になし	プライバシーの問題に過敏にならなければ、繋がれると思います。
2	3	1	民生委員としては相談者からの話を聞いてあげることが出来ますが、解決に向けてはほとんど包括支援センターに相談し方向をつけていただいています。	包括支援センターが地域と密着してくれているので助かります。	市や地区の社会福祉協議会とは行事でのつながりはありますが、気になる世帯の個人的な相談はしにくいです。	包括支援センターの方々にとっても協力して頂いていますが、センターの方の人数が少ないように思います。大変な業務なのでゆとりを持たせてあげたいです。
2	1	1 2	・本人に問題意識がない(困っている自覚がない)ので、自治体として動きにくい。 ・民生委員が正しい相談先に話をしていない事があると思う。	・個別の案件については、問題点を正しく理解する事があるが、一番大切だと思う。(原因を解決しようとしなくて、その結果として起きたことについて騒いでいるケースが多いと思う。)	どんなセーフティネットにもひっかからず、本人にも問題を解決しようという意思がみられない場合、行政にはそういう事案を担当してくれる人がいない。(当たり前ですが・・・)	・全ての行政の制度やサービスがどうなっているかを自治体や民生委員が質問できる窓口があるとよいと思う。 ・自治体では問題点に偏りがあるので、もう少し大きな単位で支え合いをした方がよいと思う。高齢化の地域と子どもの多い地域など、それぞれの問題を他の地域が支える方がよいと思う。
2	4	1 2	相談者に、民生委員として出来ること、出来ない事があることを分かって貰いたいと思う。	問題を解決するためには私生活に入り込まないと解決できない事があるため、そのことを理解してもらわなければならない。	同じことで何回も連絡してくるので、今は様子を見ることしかできないという事を伝えても、又次の日に同じことで相談してくるので、どうしたらいいの？(隣の住民が夜プロレスのようにドタンバタンとうるさく、寝られないなど)	見回りしかないと思います。
1	5	1 2	地域、近所とのコミュニケーション不足、当人の外出不足、近所との付き合い不足があり、現在この問題は解決策がありません。	・地域の方々が参加しやすい身近な場所でのイベント開催 ・しかしイベント開催のリーダーがいない、資金不足、各種規制等問題が多い	資金調達と協力者を見つけること、そして相談者がいるかいないかが問題です。	ボランティア協力者を探す、養成する施策が必要。そしてボランティアの方々の相談、支援、サポートする仕組みが必要と思います。現在ボランティアセンターとしての名はありますが、何を行っていますか？！
1	1	1 2	相談内容によって解決する場合、解決しない場合がありますが、警察が動かない(動けない)ご近所トラブルは解決しない場合が、非常に多いと思われます。	行政、包括と連携を密にして、自治会と民生委員が協力すれば、問題を解決できることもあると思います。	鎌倉市は個人情報の壁が厚い。地域福祉を推進するなら、個人情報は開示すべきと思われます。	国の方針とは言え、地域福祉を鎌倉市としても、あまりにも地域に任せ過ぎの感じがしますので、もっと行政と地域との協力が必要と思われます。
2	2	5	初めてこの役になりました。現状では引継ぎ前の民生委員からの助言・支援で助かっています。また、定例会の折りに情報・意見交換の場で、私なりに受け止めることで、解決できていると思われます。	町内会のメンバーの一人として、行事に参加する機会があり、情報・現況を知ることができております。少しずつですが、私を前向きにしてくれます。	最も感じることは、情報が入らないことです。本来、何事も問題のない社会が望まれますが、実際は表に出現することのないことばかりのように思っております。上手に距離感を保ちながら、活動をする方法はありますか？	人様に迷惑をかけることへの控えめな心持ちを声掛け合いやすい社会を地域にと日々活動していて感じております。
2	1	1 5			孤立されてしまうこと。	自治会住民の顔見知りの場をたくさん作り、住民同士の声かけによる安心・安全な地域にすること。
2	4	1 5	地域包括支援センターへ繋がったが、担当の方が思うようには解決してくれない。	町内会や近所の方が一人暮らしのお年寄りがいることをきちっと把握し、日頃から見守るようにする。	特にありません。	無関心を無くす。
2	2	1	本人の気持ちが日によって変わってしまう事。タイミングが難しいように思いました。	家族(子どもetc)と連絡が取れると有りがたいと思います。本人の本心が分かりにくいことが多い。毎日の変化を近隣で気づいていただくことが一番の解決ではないかと思われます。	人に迷惑をかけることを極端に嫌う方が多く、本当に支援を必要とする人がなかなか受けて頂けないのが現状です。	ご近所と親しくしてお互い様という考えに皆が一致している事が大切だと思います。その方向に地域でまちづくりをしていきたいと思っています。

民生委員・児童委員アンケート

①性別:1、男 2、女

②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区

③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どの様なことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとには何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	5	1 5		ネットワークの目を細かくする。関係機関、地域で声掛けする。		挨拶、声掛け、異世代交流など、横だけでなく縦のつながりが必要なのではないかと思います。
1	5	1 4 5	気になる世帯がその抱えている課題に対し、真剣ではなく取り組みにも消極的である。解決に対し、隣近所の協力をもらってアドバイスをしても、なかなか心をオープンにしないで、何とかなる(自分で解決すると安易な考え)と聞こうとしない。こちらの勉強(説明や会話力)も不足している。自分の生活実態を知られたくない、他人に世帯に入り込んでほしくない、近所付き合いが苦手・面倒と思っている方も多いようです。	私がしているのは、なかなか地域に溶け込むことのできない一人暮らしの方に対して、一人暮らし登録だけでなく老人クラブや小学校下校ボランティアグループ、また、月2回町内会館を利用していただいているカフェ等への加入、参加を勧めている。アパートやマンションに住む方たちの横のつながり(訪問してみ、住んでいる際はまだしも、他の階の住民のことを本当に知らない、知ろうとしない人が多い)。ということは、周辺の住民とはほとんど交流がないのでは? イベント(祭りでも盆踊りでも何でも)を自治町内会で開催してほしいと思います。	包括支援センターの方やケアマネ、ヘルパーさんは本当によく動いてフォローしてくれますが、行政に所属している一部の方の中には、時間外(勤務)なので対応できないから、民生委員の方で対応下さい…のようなことを言う方もいました。どんな相手にも公平には思いますが、民生委員児童委員信条の中に、「誠意をもってあらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます」とありますが、私が直接解決できない相談がとて多く、その場合頼りになるのはやはり行政だと思うのですが、単につなぐだけでいいのか? と思います。	行政や社協、施設、ボランティア団体、地域等それぞれで計画・立案して行っている行事、研修会、講演会はとて多くて、自分自身が参加する機会もとて多くなっています。しかし、参加はしても、それを実行・取り組んでいる方はまだまだ少ないと思います。納得・理解できてもそれを他の人たちに教える・共にやってもらう、後継者を探して入ってもらう、といった部分でどうしてもストップしてしまう。一人でやってみることが多くて、なかなか同じことを他の人に同調してやってもらうことが難しい。私の所属するグループ(民生委員でも老人会でも見守りボランティア等と関係なく)の中でも、もっとイベントに参加してほしい、なぜ欠席するのか、もっと自己主張してほしいと思う方が多い。人のことを助けるのは、定年後で60歳~75歳位まででそれからはたすけてもらう側に入ることを、もっと多くの人に気づいてもらいたい。たったの10年間しか人の役に立てないということ。
1	5	1	相談した内容の認識度合いがお互いにかけて離れていた場合、お互いにかけて離れていた場合が解決できなかった原因だと思います。	問題の認識度合いを共通化するために、日頃から地域での相互交流を頻繁にして、問題の共有化を図ることと思います。	マンションを担当しているのですが、対象世帯が多すぎて十分な見守り活動ができないことです。	つながり支え合うためには、何かをしてもらうのではなく、何かをしてあげてをすべての住民が考え実行することかな?
2	5	2 5	相談内容に対する実態・内容などが相談先では把握できない等。		気になる世帯について相談した場合、見守りをと言われた場合、いつまでなのか期間がわからない場合がある。	例えば日々の身近な小さな事に対して、一人ひとりが優しい気持ちであれば、そこから何か少しずつでも変わってくるのでは? と思うし、自分もそうありたいです。
2	3	1			特にありません。	
2	2	1 2			個人情報保護等の面から、どこまで介入していいのか難しいと感じている。	地域でのイベント等にできるだけ顔を出して、多くの人と顔見知りになることが必要だと思う。
2	1	1 5	近隣の方々の心配もあり相談したが(ご家族も本人が希望している生活だからと、一人で食べることはなんとかできている)、鎌倉にはこのような方が沢山いると見守りして下さっていた。市の方が少しご家族にプッシュしたら、より良い生活になったかなと感じている。	見守り出来る協力者を増やしていく。	民生委員が見守りをしていることを近隣の方や自治会にお知らせできないこと。	老人福祉センターのようなものが、規模は小さくていいので身近にあると良いと思っております。

民生委員・児童委員アンケート

- ①性別:1、男 2、女  
 ②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区  
 ③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どの様なことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとには何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	2	1 5	6 昔からその世帯を知っている人 信頼関係を築くには時間が必要。そのためある範囲ごとに(マンション・賃貸住宅も)民生委員をサポートしてもらえる人がいるとありがたい。	様々なイベントで出会い・ふれあい・学びの機会をつくる。人権教育(ハラスメントがなくなるように)、怒りを抑える訓練、人生丸ごと理解できるように子どもと老人がふれあう機会をつくる(例:デイサービスと学童保育が同じ所、会食会、施設訪問)。中学生での税金・年金・社会保障制度への理解を深め、関連して成年後見制度を考える。	「福祉の世話にはならない」と「民生委員は何もしてくれない」という意識の差があるが、どう埋めていったらよいのか。民生委員でも「近所から困っているという訴えか、本人から要望があつたらどのどちらかで動けばよい」と、「担当地区に関係なく自分でできることはやる」という違いがある。その中で一人ひとりのありのままを受けとめて、何が必要かどのような支援がマッチするか見極めて動きたい。	分断されることを防ぐ。格差が広がることを防ぐ。誰もが自己肯定感を持てるようにする。障害も個性だと言えるようになったが、より認められるようにする。季節がうつっていく日々の変化を感じられる環境。
2	2,3	1 2	その時での最前の方法を検討し実践しているのでそれなりの解決はあると思います。ただし、解決のネックになっているのは往々にして行政等の担当が縦割り、細分化していることが挙げられると思います。福祉の狭間に落ち込んでどの面からのサポート出来ない事が何度かありました。	個々に対応できることは少ないと思います。地域では横のつながり、顔の見える関係、連携作りが基本的な活動ではないでしょうか。様々な事業を展開していますが、全て目標はこれに尽きるとしています。(地区社協、民児協のイベント、連合会の活動等)。	拠点がない。腰越行政センターは大変協力的で、様々な場面で便宜を図って頂いていますが、場所として地区の端(西鎌倉地区)にあるほど、活動拠点としては使いにくいこともあります。まず備品等が置けるところが欲しいと常々思っています(現在も多少は置けているのですが)。	④との関連ですが、あちこちで問題、課題として出てくる内容の多くは、複合的な問題です。子育て、高齢者・貧困、障害等が絡み合っていることが多く、一点だけの解決を目指しても全体の解決には程遠いと思われる場面に遭遇することが多々あります。総合的、包括的に受け止める。取りあえず窓口が必要ではないでしょうか。総合病院のERのような・・・
2	1	1 5	コミュニケーション不足	町内会、自治会等の連携	仕事との両立	多くの人が町内会自治会等のイベントに参加しやすいようにできれば。
2	1	1 5				近助
2	1	1 2	3 4 5 ご本人の意向が強い場合、他の人の意見を受け入れるのが難しい方。	個人情報に気をつけ、問題を一人で抱え込まず、地域で話し合い、分担して助け合う。		誰でも参加できる研修会、会合等を開催し、情報の収集と発信、交換ができる場づくりも必要であると思う。また、風通しの良い、日頃から顔の見える関係ができるまちであってほしい。
1	4	1 2				結婚年齢の上昇と高齢者の寿命増加により、ダブルケア(育児と介護)で悩みをかかえる人が増えてくると思われる。その悩みを包括して受け付ける相談窓口をつくるよう準備検討したい。
1	2	1 2	深沢地区に一昨年、包括支援センターが新設され、多くの問題が解決できるようになった。問題を解決できないとき、その原因を探してみると、(ア)真の原因が探し出せていない場合、(イ)どこまでできれば解決なのか明確でなかった場合、解決に手こずるケースが多い。	問題の意図が不明です。問題解決は問題が起きている「より現場に近いところ」で解決するのが基本です。地域の問題は、市や民生委員などが役割分担をもとに解決していくべきだと考えています。地域で解決すべきことはたくさんあると思います。市内広域の問題は、市や市社協で解決してほしい。ただ、当福祉プランのように、計画に対して、過去3年間の実績、評価、未達の場合の原因究明などの手順を十分に行わないで、3年経ったから、また新しいプランを、というのでは課題はいつまでも達成できないと思います。	住民福祉の向上に向けて、行政の手が回らないところを社協や民児協などの団体が補完していると思っている。この際、市が個人情報保護法を盾(?)に、必要な情報、他自治体では提供しているような情報も開示してくれない。活動する上で、困ることが多い。また、鎌倉市は、縦割り行政を恥ずかしいと感じていない組織かと思うことが多い。例えば今般の「災害時避難行動要支援」の取組みなどを見ると、法律で決まったから、担当部署がしようがなくやっているように見える。住民福祉の向上を本当に考えてやっているのか、とさえ思ってしまう。市社協も同プランを市と一緒にやるなら、そうした市の体質改善に努めてほしい。	住民の福祉向上を目指す際、目標をできるだけ具体化すること。目標を大・中・小とブレークダウンすること。第1次福祉プランを見ると、目標の掘り下げが十分でないと思う。目標達成に関わる組織や人がそれを共有すること、そして、それに関わる組織や人の役割分担を明確にすること。第1次プランをよく知らないという民生委員も少なくなかった。計画し実施したら、その成果を検証・評価すること。反省する点は謙虚に反省し、次の活動で生かすこと。



民生委員・児童委員アンケート

①性別:1、男 2、女

②地区:1、鎌倉地区 2、深沢地区 3、腰越地区 4 大船地区 5、玉縄地区 6、西鎌倉地区

③相談先:1、地域包括支援センター 2、市役所 3、市社会福祉協議会 4、地区社会福祉協議会 5、他の民生委員 6、その他

①性別	②地区	③相談先	④相談しても問題が解決しなかった場合、どのようなことが原因だと思いますか	⑤問題を解決するために地域でできることはありますか	⑥活動していて困りごとは何かありますか	⑦つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください
2	5	1 5	今までに経験がない。	小さなことでもとりくんでいく。	特になし。	隣、近所、行政へ気軽に相談できるように、又、見守りも必要。お互いが仲良くなれば話しやすくなると思う。
2	2	1 5	ご家族の関係がうまくいっていない場合、それ以上民生委員として助言が出来なかった。	見守ることしかできませんでした。	一人暮らし登録をされている高齢者に何かあった場合、離れている家族に連絡をしても応答がない。また担当の訪問介護の方とどう連絡していいかわからない。傍観者的対応と思われることなど。	開かれた地域社会にすること。孤立させないことなど関心を持って見守る体制作りが必要と思う。
2	1	2	関連する専門の法律知識の不足		プライベートとの関連で時間が取れなくなるこ	
1	6	1 5	たとえば、一人暮らしで、体調不良になっても、近隣とのかかわり合いを拒否していた。地域包括に対応を依頼したが、それも拒否。駐在さんに親族の連絡先を入手し、対応した。	個人情報自治会と共有し、小さなせまい範囲で、特に一人暮らし、身体不自由な方など、相互に気遣いか、助け合いをする。	市が管理している個人情報の開示がまだ不十分だと思う。本人の承諾のもと、又市の各部署の横通しをもっと活発にし情報を共有してほしい。	
2	2	1		これからは高齢者がお互いに高齢者を見守ることを考えていかなければと思います。	お一人暮らしの高齢者の見守りだけでなく、高齢者世帯や日中一人暮らしの見守りも必要になってくると考えます。	誰でも気軽にいられるたまり場的なものが増えるとういと思っています。
2	3	1 2	現在のところ問題が解決しなかったという事例にあたりません。	地域で住みやすい環境作りの為の、住民の協力や近隣の交流活動。 住民同士の交流の場づくり 共助の意識 気軽に立ち寄れる場所 趣味サークル活動の場等作り 家の中に籠らず一歩外に出て頂き、交流の輪に入っただけ工夫	近隣とのつながりが薄いので、なかなか顔を合わせる機会がない 何か困った事があっても本人が申し出ない限り分からない (隣は何をする人ぞ?)状態 なるべく声掛けして気軽に相談して頂ける雰囲気づくりをしている	住民同士が顔見知りになり気軽に挨拶が交わせる関係づくり
1	5	2 5	今のところなし。		今のところなし。	
2	4	1	当事者又は、家族の決断力、判断力がないために決められない。物事が先に進めないところがありました。決断しなくてはならないのに、どうなるかわからないため、こわくて問題を先延ばしにするので、いつまでも解決策がたてられないということです。	町内会の方たちの協力は、大きいと思います。又、地域包括支援センターの方の協力は大変助かりました。	今は特に無いです。	コミュニケーションが大切だと思います。
2	2	1 2 5		近所にどんな人が住んでいるか、少しでも関心を持つことが必要だと思います。		日頃から近隣とのコミュニケーションが大切だと思います。
1	4	1 2	相談内容と対応するメニューが、行政側や支援センターには無いが、要件が合わなかったりした。	気になる世帯(人)などが、地域の中で、人間関係が構築することがむずかしいので、地域、社会の人間関係をより緊密にできる様な施策を考えて欲しい。	無関心な社会関係で、世帯、家族の状況を確認しづらくなっている。	人と人との関係性を濃密としていくことが大切だと思います。個人主義や過度な個人情報保護に名を借りた、秘密主義など乗り越えていける様な、地域における人と人とのスクラムの構築ができればと思います。
2	6	1 5	家族内での問題は民生委員も包括もどうにもできないことがある。	自治会、包括、民生委員でまず見守り問題の内容にもよるがゆっくり話しながら(時間的に余裕がなら)信頼してもらおうよう努力していく。	相談される内容がどこまで立ち入ってよいのかどこまで本当の話なのか判断に迷う時。	高齢者所帯の老々介護、または日々の生活。独居の一人暮らしの方が多くなり元気な方ばかりではなくなっている。手を差し伸べられて迷惑と思う方もいらっしゃる。いろいろな対応が必要となっている今、町ぐるみで、近隣の方々、みんなで見守り、なにかあれば市に、警察に、包括に、手をつなぎ努力していく自治会に加入を推進すること。ゴミ出しの規則位は知って守ってほしい。
2	1	1 5	基本的に問題の解決は困難です。		民生委員として立ち位置がはっきりわからない。	自治会に加入を推進すること。ゴミ出しの規則位は知って守ってほしい。
2	6	1 4 5	相談内容が理解できていなかった等。	近隣に気をつけてもらい情報の提供をお願いする。	担当地域が私の住まいと遠いので、様子がわからない部分が多少ある。	コミュニケーションが大事。B144:J145
2	1	1 5	本人、家族が正しく理解できない。	個人的な事が多いので地域に出せないから難しい。		コミュニケーションが大事。
2	5	1		本人の話を聞き、どんな方法があるか考える		